

全体の書式

本文 MS明朝 11ポイント 40字38行

全体の表題

16ポイント

別紙

## アリスの国のふしぎ

節の表題

=見出し1を指定

12ポイント

安井 泉

氏名

14ポイント

マージン

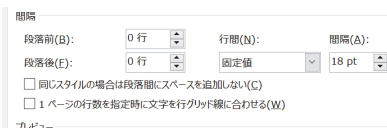
上下左右 いずれも 25mm

ヘッダー・フッター 15mm

## 1. はじめに

アリスのたどった不思議の国には、多くの「ふしぎ」が潜んでいる。そのうちのいくつかのなぞを解き明かしてみたい。『不思議の国のアリス』(Alice's Adventures in Wonderland 1865)の作者 Lewis Carroll (1832.1.27 生)は、本名を Charles Lutwidge Dodgson というが、この Lewis Carroll というペンネーム(初出は 1856 年)からして、Charles Lutwidge という本名をいったんラテン語に直し、その順を入れ替え、さらに英語に戻すという念の入ったトリックを用いて創られている。

行間固定値 18pt



## 2. 黄金に光輝く午後

1862年7月4日の金曜日の午後、当時30歳の Lewis Carroll は、Oxford 大学の Trinity College の同僚 Reverend Robinson Duckworth と、Liddell 教授の3人の娘 Lorina Charlotte Liddell (当時、13歳)、Alice Pleasance Liddell (当時、10歳)、Edith Liddell (当時、8歳)を舟遊びに誘う。Oxford 近くの Folly Bridge から約3マイル上流の Godstow まで、テムズ河をゆっくりと漕ぎ上る舟旅。舟遊びの道すがら、お気に入りのアリスにせがまれ、おとぎ話の小槌を振り振り、紡ぎ出した話が『不思議の国のアリス』の翻案の『地下の国アリス』となる。

当日の様子を、Carroll も Duckworth も、そして、当のアリスも「とても良い天気です汗ばむような日であった。」と後に回想している(キャロルは25年後。cf. Pudney 1976, 6-7)。アリスの解説書はこぞって、これに賛同している。『不思議の国のアリス』のプロローグとなる、次の詩も「素晴らしい天気の後」で始まる。

## 3. リンゴ掘り

アリスは、ウサギの召し使いのメリー・アン<sup>1</sup>と間違えられ、ウサギに、ウサギの手袋と扇をウサギの家に取りに行くよう命令される。手袋と扇を見つけ部屋を出ようとするとき、鏡の前に瓶を見つける。飲んでみる。身体はまたたくまに大きくなり、部屋いっぱいとなる。

ウサギは帰ってこない女中にいらいらして様子を見に戻ってくる。部屋の扉からは、アリスが部屋いっぱいになっているため、中には入れない。窓から入ろうと表に回る。アリスはウサギが来たと思い、手で空をつかむ。ウサギは、キュウリの促成栽培の温室の上に

<sup>1</sup> メアリー・アン (Mary Ann) という名前は、19世紀のヴィクトリア朝時代においては、典型的な女中の名前である。